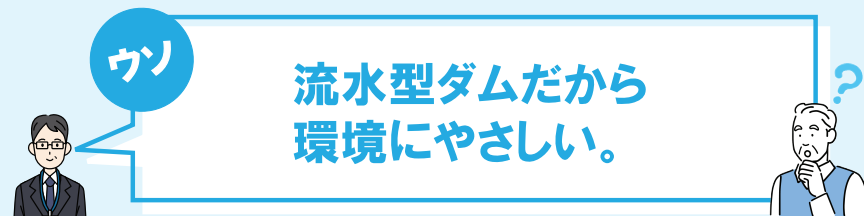


2020年7月4日球磨川豪雨災害



2020年7月豪雨災害の検証と流水型川辺川ダムについて国土交通省の説明のウソを解説します。



## ホント すでに完成した流水型ダムでは深刻な環境悪化が進んでいる

国は「アユなど、川のすべての生き物がダムの穴を移動できるようにする」としています。しかし、それを裏付ける実際のデータは一切示されておらず、あくまで「シミュレーション」の話に過ぎません。全国の流水型ダムでは、ダム完成後にアユなどが激減し、濁りが長期化するようになりました。上流や下流に土砂が堆積して草が生え、生態系も景観も大きく変わってしまっています。

アユやヤマメが減れば、全国から流域を訪れている釣り客は消え、観光産業や地域経済に大きな打撃となります。川辺川は「清流日本一」ではなく、球磨川は変わり果てた姿になるでしょう。

各地の流水型ダムで川はどう変わったか



島根県益田川ダム上流(上)と下流(下)川の中に土砂が貯まり草地に変わった

山形県最上小国川ダムは完成後すぐに土砂が堆積。下流側の河岸には真っ白な泥が貯まり大水の度に濁りが長期化。鮎は激減した

ウソ

支流の氾濫は、球磨川本流の水位上昇によるバックウォーターが原因。だから、川辺川ダムを建設して、本流水位を下げれば良い。



ホント

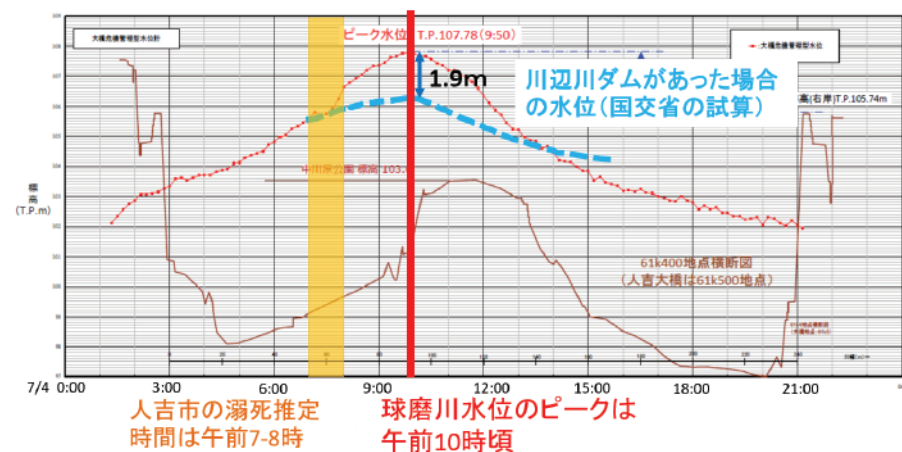
## 本流より先に支流が氾濫。ダムがあっても支流氾濫は防げない

「本流の水位が上がったために、支流が合流点でせき止められ、逆流して氾濫した」「川辺川ダムで本流の水位を下げれば、本流も支流も氾濫しない」というのが、国交省のバックウォーター説です。

しかし、山田川など球磨川支流は、球磨川本流が最大の流量に達する午前10時頃より2時間以上前に氾濫していました。市民グループによる詳細な調査の結果、人吉で亡くなられた20名の方々についても、すべて午前7時から8時に支流からの氾濫で亡くなっていると推定できます。時間や水の流れた方向を考えても、バックウォーターによる氾濫だけが原因とは考えられません。

球磨村、芦北町、八代市坂本町でも同様に、本流がピークに達するより早い午前7～8時の間に、支流氾濫が原因で亡くなっていると推定される方がほとんど。川辺川ダムで本流の水位を下げても、支流氾濫は防げません。

人吉市内溺死者の推定溺死時間と、人吉地点での球磨川本流のピーク水位、川辺川ダムによる水位低減効果（国交省試算）の時間的配置



「第2回令和2年7月球磨川豪雨検証委員会説明資料」69頁に加筆



荒廃した支流上流の山の問題などは放置されたままダム計画だけが進む

ウソ

川辺川ダムがあれば、人吉市の被害の6割は無かった。



ホント

## 川辺川ダムがあっても、被害の6割減少などありえない

7.4 球磨川豪雨災害の原因となった線状降水帯は、球磨川中流域に大雨を降らせましたが、川辺川ダムの集水域である五木・五家荘にはこの線状降水帯はかからず、川辺川上流部にはあまり雨は降っていませんでした。7.4 球磨川豪雨での、川辺川の水による下流の人吉市の被害への影響は微々たるものです。

ウソ

人吉でのピーク流量は7,400トン/秒



ホント

## 実際は10,000トン/秒以上。7,400トン/秒はダム建設を正当化するための過小見積もり

民間の専門家は、7.4 洪水の流量は人吉で1万トン以上と指摘しています。一方、国交省は7,400トンと過小に見積もっています。これは1万トン以上と認めると、ダムを造っても洪水を防げないことが分かってしまうからです。「市房ダムと川辺川ダムがあれば、安全に流れる」とし、川辺川ダムの必要性を正当化するための国のウソです。

ウソ

球磨川第4橋梁と洪水は関係ない。



ホント

## 第4橋梁がダム化・崩壊したため下流では大洪水が発生

7.4 豪雨災害の前日、球磨川と川辺川に挟まれた合流点の土地には、大量の材木が置かれていました。これらが水害当日、氾濫で一斉に流され、上流からの流木や草とともに200mほど下流の球磨川第4橋梁に引っ掛かり、水が溜まって一時的にダムのような状態になりました。やがて溜まった水の圧力によって、午前9時頃、大きな音と共に橋は倒壊し、貯まっていた水が鉄砲水となって人吉市ほか下流を襲ったと、多くの証言や痕跡から推定されます。国交省は十分に検証をせず、「上流に川辺川ダムを作れば良い」と単純化し、結論付けています。

